

自然観察会報告
富士宮市西白塚でのキノコの観察会
横山謙二



キノコの観察会の参加者

9月23日（月）秋分の日、富士宮市西白塚でキノコの観察会を行いました。参加は、12名で、静岡木の子の会の池ヶ谷さんに講師をしていただきました。キノコの観察会は、2008年9月に井川の県民の森で行った観察会からひさびさとなります。自分は、前回の県民の森の観察会には参加できず、今回の観察会をとて楽しみにしていました。

観察会を始めてすぐに、たくさんのキノコが見つかりました。自分の興味は、そのキノコが“食べられる”か“食べれないか”にあり、講師の池ヶ谷さんには、そのことばかり質問してしまいました。観察されたキノコのうち確実に食べられるキノコとしては、ナラタケ・ヤマイグチ・タマゴダケなどがありました。同じような形や色をした似たキノコが多いので、慣れていないと識別が難しいようです。その中で、自分でも識別できるようになったキノコは、ヌメリツバタケです。このキノコは、木の幹や朽木にやや密集して生えており、触るとナメコのようにヌメツとした感触のある真っ白いキノコです。味噌汁などにして食べると美味しいと聞きましたが、ブナ林のあるところでは生えていないので、残念ながら身近なところでは、はえてなさそうです。

食べられるキノコしかほとんど興味がなかったのですが、全体が紫色のムラサキアブラシ



ヌメリツバタケ

メジモドキ（食用）や赤い色の傘を持つベニタケなどのカラフルなキノコ、きれいな球形をしたホコリダケの仲間などユニークな形をしたキノコも観察でき、食べられないキノコにも興味を持つことができました。

今回の観察会では、約50種のキノコが見つかりました。池ヶ谷さんには、いろいろと見分けるための違いを教わりましたが、帰ってから写真を見直すと、似たような形や色のキノコがあり、なかなか識別ができません。毎年秋になるとキノコ狩りで毒キノコを誤って採集し、食べて中毒になる人が大勢いて、中には死にいたるケースもあると聞きます。自分はナメコやシイタケ、シメジなど、キノコを食べるのが好きなのですが、まわりにキノコについて詳しい人がいないので、キノコ狩りをしたことがなく、野生のキノコを食べたことがありません。今回の観察会は、“観察会”で“採集会”ではないので“食べれる”ことはできませんでしたが、ヌメリツバタケという一つ食べられるキノコを覚えることができました。みなさんも、知らないキノコ、わからないキノコは決して口にしないで下さい。次回のキノコの観察会の予定はまだ決まっていませんが、回を重ねてもっとキノコの知識を深め、食べられるキノコを覚えていきたいと思います。